

えせ同和行為 排除のために

〈キャスト〉

香坂みゆき
鳥居しのぶ
栗山 永吾
内浦 純一
山口 太郎
佐々木 敏
関根 大学
野村 昇史
上野 悠馬
小池 達子
(キャスター)



〈スタッフ〉

プロデューサー・鎌田 幸人 録音・岩崎 昌男
古知屋正裕 演出助手・山口多美子
町井 新一 保母新之助
脚本・演出・滝坂 裕二 美術・斉藤 直人
撮影・繁田 良司 美粧・入江 壮二
照明・増田 昌之 進行・大極 啓太

制作協力 (株)日本産業映画センター
VHSカラー/30分(字幕入り)



〈撮影協力〉

東京法務局人権擁護部
(財)暴力団追放運動推進都民センター
第一東京弁護士会

企画/法務省人権擁護局
(財)人権教育啓発推進センター

〒105-0004 東京都港区新橋2丁目5番5号
TEL 03-3503-3304(直) FAX 03-3503-3161

制作/東映株式会社

えせ同和行為排除のために

制作にあたって

法務省では、「えせ同和行為」の実態を把握するため、昭和62年から7回にわたりアンケート調査を実施してきました（第7回目調査、平成13年1月実施）。その結果から「機関紙・図書等物品購入の強要」による要求が依然として多いことが注目されます。そこでこの作品では、一方的に送られてきた書籍の扱いをドラマで描きながら、実際の対応についての解説をしていきます。

えせ同和行為による被害は企業ばかりではなく、あらゆる場で起こりうる可能性があります。えせ同和行為を排除し、一日も早い同和問題の解決のための一助となるよう、研修や講演会等で活用していただける教材としてこの作品を制作しました。



あらすじ

〈ドラマ〉

ある会社のオフィスに、小包の箱が届く。その後の電話から、同和問題に関する書籍の購入を求められるものであることが判明した。

対応に出た主任の神山が結論を先延ばししていると、相手は次第に高圧的になり、その本性を現してくる。

会社のために一人責任を負い、この問題に気丈に立ち向かう神山。しかし的確な対応が出来ず、思い悩む日々が続く。ある時、神山は人権擁護委員を紹介され、今、直面している問題はえせ同和行為の可能性が高いことを知らされる。さっそく相談に行った神山は、えせ同和行為への対応を身につけるとともに、同和問題への認識と理解を深めていく。

後日、書籍を送りつけた二人が突然オフィスに乗り込んでくる。しかし神山は、毅然とした態度で対応し、今後どうすべきかは法務局に判断を委ねることを伝え、不当な要求をはっきりと拒否するのだった。

〈キャスター解説〉

- えせ同和行為を排除するために
- 排除すべきは「行為」
- えせ同和行為の実態
- えせ同和行為への対応
- 相談窓口

同和問題とは

日本の歴史の中でつくられた身分階層構造による差別により、国民の一部の人々が長い間経済的、社会的、文化的に低い状態におかれることを強いられてきました。これらの人々は、今なお日常生活の上でいろいろな差別を受けることがあります。これが「同和問題」と言われるもので、「部落問題」、「部落差別問題」などとも言われ、人権問題であるとともに重大な社会問題です。同和問題を解決するためには、国民一人一人が同和問題についての正しい認識を持つことが必要です。

えせ同和行為とは

「同和問題を理解しているのか」とか「同和問題解決のための国民的課題をどう考えているのか」などと同和問題を口実にして企業や行政機関などが不当な利益や義務のないことを求められる行為のことです。これらの行為は、これまで積み重ねてきた同和問題についての啓発効果を一挙に覆すことになり、ひいては同和問題に対する誤った意識を植えつけるなど、同和問題の解決を妨げる大きな原因となっています。